



平成 28 年度 教職員との福祉学習について の交流会



～ 当日の記録 ～



社会福祉法人 川崎市多摩区社会福祉協議会
福祉教育推進委員会

日時：平成 28 年 7 月 15 日（金）14：15～16：35

場所：多摩市民館 3 階 大会議室

当日の参加者：20名

【教職員 10名（小学校 6名、中学校4名）、福祉関係団体 10名】

— 次 第 —

1 開会・趣旨説明



2 第1部

（1）講話 「福祉教育って何？～なぜ福祉教育を行う必要があるのか～」

講師：高木 寛之 氏

川崎市多摩区社会福祉協議会 福祉教育推進委員会 委員長

山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科 講師

（2）福祉用具の説明・体験・・・・・・・・・・教職員

情報交換会・・・・・・・・・・福祉関係団体



3 第2部 交流会

4 まとめ・アナウンス

5 閉会





「福祉教育って何？～なぜ福祉教育を行う必要があるのか～」

講師：高木 寛之 氏

川崎市多摩区社会福祉協議会 福祉教育推進委員会委員長

山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科 講師

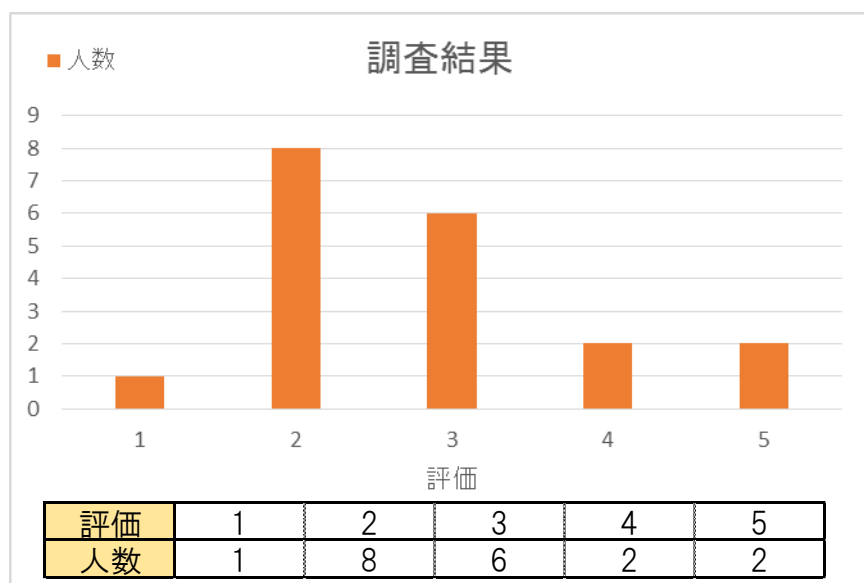
はじめに・・・

参加者の自己評価調査

参加者に、「自分がどのくらい福祉教育に携わっているか？」「どのくらい福祉教育について理解できているか？」を1～5の数字で評価していただきました。

（「1」が全然分からない・経験が無い、「5」がよく分かっている・頻繁に携わっている、として5段階評価）

調査結果は・・・



また、「聞きたいこと・知りたいこと」についてもご記入いただきました。（結果は p. 10 参照）

🌸 次に、参加者の質問・聞きたい事へお返事

？ 地域の大人の方々が、障害を持って生活している方について（生活の様子・願いなど）知り、共に助け合えるにはどのような方法があり、どう工夫すればいいのでしょうか？小・中学生は学ぶ機会が増えていますが・・・

？ 子どもたちが表面上の理解で終わってしまうので、どう工夫したらよいのでしょうか。

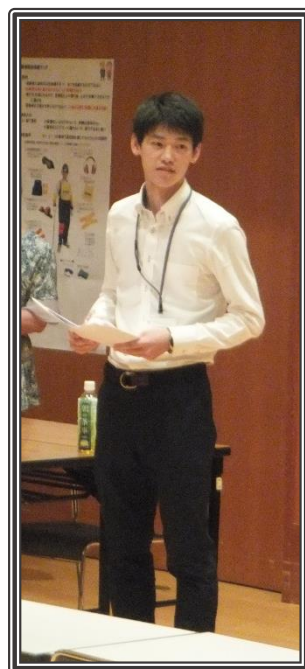
？ 何となくの知識しか無いので、福祉について子どもたちにどのような事を教えたらいいのかわかりたいです。

💡 地域には様々な社会資源があります。本日参加されている福祉関係団体の方もそうですが、地域にいる方をどんどん巻き込んでいってください。「協力者をどう巻き込んでいくか」が一つのポイントになります。

一つの方法としては、福祉用具の体験があります。本日、この講話の後に福祉用具の体験をしていただきますが、一つ注意点があります。例えば、本日妊婦体験セットを用意しています。これを装着することによって私は、妊婦さんと同じような状態になるようなことができます。しかし、外してしまえば元通りです。私は男性なので、実際に当事者になることはできません。子ども達と同じように体験した結果抱く感想は、「お腹が重かったな。でも自分は男だから関係ないや」です。

同じように、アイマスクを付けて白杖を持つことによって、視覚障害者と同じ状態になることができます。しかし、私は現在目が見えますので、生まれつき視覚障害者の方と同じ状態になることはできません。あくまでも中途障害の状態です。そして、アイマスクを外してしまえば、元に戻ってしまいます。アイマスクを装着したことによって、突然見えなくなる体験をした子ども達は、「目が見えないって怖い」と感じます。そして、アイマスクを外した子ども達は、「目が見えないって大変だな。自分は目が見えて良かった。」という感想を抱くことになってしまいます。

しかし、例えば生まれつき視覚障害の方は、本当に目が見えないのが怖いのでしょうか？恐らく違うと思います。体験をすることによって、「障害って大変だな」というマイナスのイメージを持ってしまいます。



では、なぜ「体験」をするのでしょうか？

体験は、障害当事者の日常生活がどのように見えるか「気づく」ための導入手段だからです。

授業の展開として、よく「障害者は大変だし可哀想だね。だから街で見かけたら声をかけて助けてあげようね」という流れをよく見かけます。しかし、障害者は本当に助けてほしいのでしょうか？障害者は本当に大変なののでしょうか？

本日当事者の方が参加してくださっていますが、本当に色々な事ができます。私が今、突然見知らぬ車いすユーザーの方に「何か困っていませんか？」と声をかけても、声をかけられた側も困惑されると思います。もちろん、本当に困っている場合には声をかけていただきたいです。しかし、「見守る」というのも一つの共存です。

また、「助けてあげる」ことで、無意識に助けて「あげる側」と「あげられる側」に分かれてしまいます。これでは福祉教育の意図とズレてしまいます。

そこで、「体験」を経て感じたマイナスのイメージと、実際の当事者とのギャップを埋めるのが、「当事者との交流」です。当事者とコミュニケーションをとることが、プラスの部分に気づきかけになります。

そのため、体験をする際は、是非当事者とのコミュニケーションも大切にしてください。



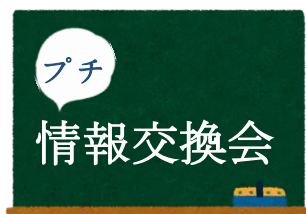
先生方は、2人1組で興味のある福祉用具のブースに行って、体験や福祉用具を用いて福祉学習をする際のポイントや注意点を知っていただきました。



お腹が重くて起き上がるのが大変なので、介助役がお手伝いをしています。



視界が狭く危険なため、見守りをしながら必要に応じて介助をします。



先生方が福祉用具の体験をしている間に、普段学校で福祉学習の講師をされている福祉関係団体の方同士で、情報交換を行いました。

- ・若い当事者は仕事をしていることが多く、講師として活動できる人が限られているので、同じ時期に依頼が集中してしまうと、人を探すのが大変。
- ・今はインターネットが普及しているため、事前学習として子どもたちが皆よく勉強してくれている。



- ・学校で講師をした後に、地域で子どもたちに会った、「盲導犬だ！」と、盲導犬の名前は呼んでももらえるけれど、自分の名前は呼んでももらえないのが少し寂しい。
- ・学校から依頼があった場合、実際に行くのは数人だけど、何を話すか等は団体の中で皆で決めている。
- ・以前、講師をした学校の子供達からお礼の手紙を貰ったことがある。気持ちはとても嬉しかったけど、私は視覚障害者で手紙を直接読むことが出来なかったの、朗読ボランティアさんに読んでもらったものを聞いてから、自分でテープに音声を吹き込んでお返事をした。
- ・子ども達からの質問でたまに「障害者になって一番嬉しかったことは何ですか？」等と言われて「子ども達の感性は面白いな」と思うことがある。しかし、その時に先生たちは慌てて謝られたりする。個人的には、質問の時間は子ども達の思った事や考えたことを、自由に聞いてもらっていいと思う。



山梨県立大学の学生さんによるアイスブレイク、「もしもしかめよ」に合わせた手遊びで、参加者の皆さんの緊張を解しました。



交流会



学校の先生、福祉関係団体、福祉教育推進委員が各2～3名ずつ、5グループに分かれて自由に交流をしました。



Aグループ

・「ユニバーサルスポーツを川崎市で広めよう」「市で協力しよう」という姿勢があることを知った。ユニバーサルスポーツを通じて福祉学習の授業にもご協力いただけるとのことなので、是非お呼びしたいと思う。

・学校側に電話で、車いすで体育館に行く道のりにスロープがあるか確認したら大丈夫と言われ、当日行ってみたらスロープの真ん中にポールが立っていて通れなかったことがある。お互い電話だけでは分からないことも多いので、可能ならば事前打ち合わせは講師が学校に訪問すると良いと思う。

Bグループ

・学校から講師の依頼を受けたときに、人手が足りないと地区社協の方に手伝ってもらいたい。講師だけで全てに対応するのは難しい。そのような時に地域の方に手伝っていただくと、とても助かる。

・「知らない」「無関心」というのは、虐めに繋がりがやすい。まずは知ってほしい。

・以前、授業で車いすや視覚障害の体験を実施したが、「体験」だけで終わってしまった。同じ教室内の友達が困っていたら助けられるような、支え合いの心を育てていきたいと思う。



Cグループ

・小学校と中学校では教育の仕方が違うと思うが、小学生ならば当事者と同じ空間に居ることで、少しずつ理解して手助けしてくれるようになる。常に関わり、自然に学ぶことができるのが、福祉教育だと思う。

・学校で1・2時間の授業をするだけでは、深い理解までは難しい。しかし、小4の時に福祉学習を受けた子が、中2でもう一度講師として授業に行った時に、「前に教えてくれたこと覚えてるよ」と声をかけてくれたことがある。短くても決して無駄な時間ではない。



Dグループ

・学校で福祉学習の授業をした後に、子ども達からお礼の手紙を貰えるととても嬉しい。近所で会った時に挨拶を交わせる関係になるのが理想的。

・自分は子どもの頃から盲学校で遊ぶ機会が多く、小さいうちから自分で何でもやっている視覚障害者の方達を見ていたからか、当事者が「出来ない」のではなく、「こうすると出来る」という視点で考える様になった。当事者と過ごすことが大事なのかなと思う。

Eグループ

・普段から当事者と交流をしたいと思っていても、学校ではなかなか難しい。関わる機会を作りたいとは思っているが……。

・「お互い理解し合う」というのはとても難しいとは思いますが、それでも少しずつ障害者について知っていただきたい。学校の授業にも是非呼んでほしい。



まとめ



<高木委員長>

最後に少しだけまとめをさせていただきます。

福祉教育では、「興味・関心を持つ」→「見る・知る」→「考える」→「行動する」の4つのステップが大切になります。しかし、福祉学習の時に、この順序をとばして突然「体験」だけを行う、という授業をすることがよくあります。

本日先生方には、ここにある福祉用具の「体験」をしていただきました。このような体験は、障害者自身、つまり「人」を見るのではなく、体に負荷をかける「障害」を見る体験になります。突然「障害」を見てしまうと、稀に「共存」を望んだり良い方向へ展開する場合がありますが、多くの場合は考えずに体験をしてマイナスイメージを持ってしまうため、結果的に「排除」へと繋がります。



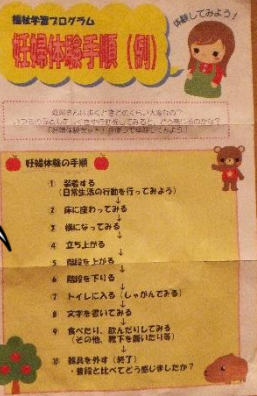
しかし、「福祉教育」とは、「関わり方を学ぶこと」、「なぜ関わるのかを学ぶこと」なのです。「障害」ではなく障害者自身、つまり「人」を知ることが重要になります。

そこで、前半の講義の部分でもお話しいたしましたが、先生方は福祉学習で「体験」を取り入れる際は是非、本日いらっしゃっている福祉関係団体の方を講師にお招きください。「人」を知ることによって初めて、行動や共存へとつながります。授業展開を考えると時には、このことを大切にしてください。

当日の様子



福祉用具体験時に、各ブースで体験のポイントを説明しました。



第1部の講話の様子です。



妊婦体験ジャケットを装着したまま起き上がるのは大変です。



視覚障害や聴覚障害、車いすユーザー等、様々な立場の当事者の方にご参加いただきました。



高齢者疑似体験セットを装着して、飲食体験をしています。



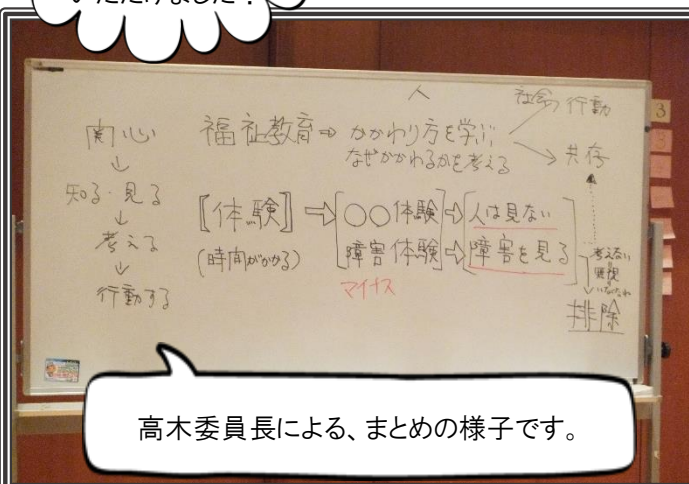
アイスブレイクは皆さんに楽しんでいただきました！



福祉教育推進委員が、手話で閉会の挨拶をしました。



高木委員長による、まとめの様子です。





本日知りたいこと・学びたいことがありましたら、ご記入ください。

1 ・なんとなくの知識しかありません。福祉について子どもたちにどのようなことを教えたらよいのか知りたいです。

2

- ・福祉教育をどの程度知っているか。聞きたいことは、中 1 総合学習として障害者・高齢者を扱うが、2・3 年に上がったときにどのように発展できるか。介護士の仕事内容など、何かプログラムがあるのでしょうか。
- ・子どもたちが表面上の理解で終わってしまうので、どう工夫していったらよいか。本音と建て前みたいな「分かっているけど、でもできない」という気持ちをどうしていったらよいか。
- ・「教育」というと学生とのイメージがあるが、生涯という意味か？
- ・特に意識していなかった。福祉って広すぎるのでどう的を絞っていくか。
- ・福祉教育を中学校で実践するには、どんな準備が必要か、どんな方法があるか。
- ・小学校段階における福祉教育の在り方や子どもに期待すること。
- ・小学生が学ぶべき福祉とは。

3

- ・福祉教育を子どもたちに広める方法とは？
- ・福祉教育をする際に、当事者側が伝えたいことを伝える方法などで有効なもの、方法があったら知りたいです。
- ・ボランティアの育成、参加の仕方。
- ・多摩区の現状を知りたい。
- ・小学校の総合の学習のカリキュラムの中に福祉教育があります。何を、どのように、どの程度の内容を学べばよいのか、アドバイスを頂けると嬉しいです。

4

- ・聴覚障害に関わっているが、その他はよくわからない。全般的に広く知りたい。
- ・地域の大人の方々が、障害を持って生活している方について（生活の様子・願いなど）知り、共に助け合えるにはどんな方法、工夫などしたら良いのでしょうか。小中学生は学ぶ機会が増えていますが……

5

- ・当事者自身の意見を言えるようにしたい！

平成28年度 教職員との福祉学習についての交流会 アンケート結果

1 ご自身についてお教えてください。

性 別		年 齢 層						
男性	女性	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
7 人	10 人	3 人	4 人	4 人	3 人	4 人	1 人	0 人

2 所属をお教えてください。

福祉関係団体 9 人	小・中・高等学校 10 人
------------	---------------

その他：学生 1 人

3 今回の交流会での講義や体験、交流を通じて感じたことや考えたこと、学んだこと、講師や委員へのメッセージなどがありましたらご自由にお書きください。

- ・福祉とは何か、なんとなく知っていたけれど、今回の交流により障害者の方のお話を聞けたり、実際に福祉用具の体験ができたりして、とても良かったです。(40 代／学校教諭)
- ・高木先生のお話がとても面白かったです。福祉教育の入口に立てたかと思いました。(30 代／学校教諭)
- ・福祉教育をする者として、自分の考えで正しいのかどうか判断することができた。また、障害者スポーツ団体等、身近にあり、また市が普及のための助成をしていることがわかり、今後活用していきたいと思った。(50 代／学校教諭)
- ・様々な立場の方を呼んでの交流という形式だったので、考えが広がり勉強になりました。(30 代／学校教諭)
- ・大変勉強になりました。当たり前のことと行動していましたが、教える立場の人間として高木先生の話し方、内容はすばらしく、今後に生かしていきたいと思います。(40 代／学校教諭)
- ・当事者の方と交流し、お話を聞き勉強になりました。学習に生かしていきたいです。(20 代／学校教諭)
- ・実際に体験することで、福祉のスタートラインに立てた気がしました。(20 代／学校教諭)
- ・福祉体験は障害の疑似体験ではなく、関わる方の体験だと知り、考え方が変わりました。(30 代／学校教諭)
- ・パラリンピックのこと、また、障害者スポーツの種類等、様々な教育に関わっている人の話を聞けてとても勉強になりました。関わっている方の話を直接伺えることはとても良かったです。(60 代／福祉関係団体)
- ・色々な団体の方が来ていたので、当事者の考えや他の人達のやり方を知ることができ、参考になった。(40 代／福祉関係団体)
- ・グループのまとめ役の委員さんへ、皆さんの意見を聞いてほしかった。(60 代／福祉関係団体)

- ・若い先生たちが悩みながら福祉学習について考えていらっしゃることが伝わりました。(60代／福祉関係団体)
- ・今回の目的が交流なのか、福祉教育なのか。学校に対しての情報提供の色が強い感じ。共働で何かするという感じではないかなと思います。(40代／福祉関係団体)
- ・色々な立場で働いていらっしゃる方の意見が聞けて良かった。(60代／福祉関係団体)
- ・学校の先生と直接、福祉授業についての意見交換ができたのがとても楽しく有意義でした。来年も是非楽しみにしています。(できれば年2回位やってほしいと思います。)(50代／福祉関係団体)
- ・当事者の人達が交流するとき(小・中学生)にどういう気持ちなのか理解できた。小学生にも気持ちを伝えれば関心から行動に移すことができると思った。(20代／学生)

4 今後の交流会でやりたいこと、聞いてみたいといったものがございましたらご自由にお書きください。

- ・障害の種類程度もあると思いますが、具体的な関わり方をもっと知りたい。支援ということではなくて、生活や関わり方でこんなことはやっても大丈夫とか、こういうことをすると仲良くなれる、など学べたら嬉しい(50代／学校教諭)。
- ・手話についての情報が欲しかったので、事前にその旨をお伝えしていれば、交流会の時に話を聞けて良かったのかと思います。でも、障害者スポーツの話も初めて知る事ばかりで興味深く拝聴しました。(30代／学校教諭)
- ・聞きたいことがよく分からない。(50代／学校教諭)
- ・特にありませんが、他の教員にも伝え参加していきたいと感じました。(30代／学校教諭)
- ・今日のように色々な方と接する機会を増やしていきたいと思います。(40代／学校教諭)
- ・今回はグループで交流という形だったので話しやすかったです。(30代／学校教諭)
- ・小学生との関わりについてもっとお聞きしたいです。(20代／学校教諭)
- ・もっとたくさん当事者の方と話をしてみたいと思いました。(20代／学校教諭)
- ・現場での課題を聞きたいです。(60代／福祉関係団体)
- ・まちづくりの話が出ていたので、そんな方が参加してお話が聞ければ…(40代／福祉関係団体)
- ・当事者たちとの交流大事だと思います。(60代／福祉関係団体)
- ・もっと参加者(団体)がいるといいですね。当事者の方に車いす、盲、聴覚ともっともっと違う障害の方にも来てほしい。(40代／福祉関係団体)
- ・当事者の体験談を聞きたい。(60代／福祉関係団体)
- ・もっと多くの学校、団体が参加できる工夫をして頂きたい。(50代／福祉関係団体)
- ・子ども(小学校)から福祉のことを学ぶことが大事だと思いました。ありがとうございました。また出席したいと思っていますので、よろしくお願い致します。(50代／福祉関係団体)
- ・来年はもう少し早い時期(6月?)に、多くの方々と交流出来たら幸いです。(60代／福祉関係団体)

5 今回の交流会で良かった点、悪かった点がございましたらご自由にお書きください。

- ・初めてでしたが、とても勉強になりました。(40代／学校教諭)
- ・最後の交流会は、興味関心によって、グループが分かれていますれば意見の交流がより有意義になると思う。
(50代／学校教諭)
- ・実りの多い学習会だったと思う。何度も来ることができれば新しい発見ができそうです。(50代／学校教諭)
- ・2時間があっという間にすぎました。ありがとうございました。(40代／学校教諭)
- ・もっと様々な障害を持った方と話がしたかったです。福祉教育とは…の様な話もいいけど…(30代／学校教諭)
- ・当事者の方とお話しできたのがとても嬉しかったです。(20代／学校教諭)
- ・当事者の方を交えて意見交流ができた点が良かったです。(20代／学校教諭)
- ・講義の時間がもう少し短くてもいいかもしれない。もっと交流したかった。(60代／福祉関係団体)
- ・当事者の方、家族の方など色々な方に会えたこと。(30代／学校教諭)
- ・初めての参加でしたが、内容が充実していて参加して良かったです。(60代／福祉関係団体)
- ・皆さんまた次年度もよろしく。(60代／福祉関係団体)
- ・今後、車いす体験をすることの意義が分かりました。手話通訳の方が素晴らしい！(60代／福祉関係団体)
- ・交流する時間が短かったと思います。話すテーマが絞られていると、要点よく話ができただかも。(40代／福祉関係団体)
- ・先生方、お忙しいと思いますが、もっと頻繁にやってほしい。(60代／福祉関係団体)
- ・昨年同様、とても楽しく価値ある時間でした。時間が少し足りないかな…(50代／福祉関係団体)
- ・悪天候の中、当事者の方々が参加してくださり、貴重なお話を聞くことができました。社協の福祉教育推進委員さんや、地域の民生委員とも協力し合えたらと感じました。講師の先生のお話も原点に帰れる良いお話を伺えてありがたかったです。(60代／福祉関係団体)
- ・当事者と福祉関係団体との意見交換の時間で場所を変えた方が良かったと思いました。話が少し聞こえづらい部分があったのかもしれません。(20代／学生)